

¥0

Free

No.14  
2017 年春号

霊山を背にした石切谷

善通寺から  
みえる世界遺産

# 散策 善通寺

ふる里の風景を歩く



空海の里を  
再発見する

特集

異世界への扉

必携の  
散策ガイド

五岳山 (天霧山より)





### 善通寺と丸亀平野（飯野山より）

#### 仏塔の石を産出した善通寺市

仏教の伝来後、仏教寺院が広まると、石製の仏塔や石仏などが造られるようになりました。天霧山の麓は石切谷と呼ばれ、古来より仏塔の材料として天霧石（凝灰岩）が切出されました。また、谷の背後にある弥谷寺は、凝灰岩の露頭がある弥谷山の山腹に造営されています。これらの地域には、異世界へ通じるという洞穴や不思議な伝承を残す岩が数多くあります。これらの洞穴などを巡り、伝承が語る異世界を垣間みます。

# 異世界への扉

## 洞穴の山コース

仏塔や石仏の石が切出された天霧山麓。その背後の弥谷山の凝灰岩露頭地に造営された弥谷寺。いずれにも異世界に通じるという洞穴があります。石切場に残る洞穴の風景をめぐる。

コース  
紹介

### 異世界への扉が開く洞穴の風景とは・・・

洞穴の山コースの所要時間：4～5時間

弥谷寺駐車場

弥谷寺水場洞窟

弥谷寺本堂

蛇石

牛穴

月照・信海像

牛額寺

# 洞穴の山コース



## ①獅子之岩屋（弥谷寺大師堂）

弥谷寺の賽の河原と呼ばれる参拝道を登りきると大師堂が現れます。空海が明星之窓の明りをたよりに勉強修行したという岩屋があります。修行の妨げになる煩惱などを喰い尽くす獅子の咆哮に似ることから獅子之岩屋と呼ばれます。



## ②水場の洞窟

本堂に向かう参道にある洞窟で、真言を書いた経木を水で洗い清めて死者の菩提を弔う「お水まつり」が行なわれます。阿弥陀仏の浄土へつながるといわれる洞窟は、扉で閉められています。



## ③弥陀三尊磨崖仏

水場の洞窟から本堂までを比丘尼谷と呼び、多くの墓がならび、岩壁には弥陀三尊が彫られています（鎌倉時代作）。岩壁には、無数の岩穴があります。





うしあな  
⑤牛穴

牛額寺の薬師堂の背後にある洞穴で、今は塞がっていますが、多度津町の山中にある風穴とつながり、霊牛が出入りすると伝わります。傍らには、幕末の勤王運動に身命を捧げた月照と信海兄弟の石像が立っています。



じゃいわ  
④蛇石

讃岐配流中の法然が、弟子の父親が生前の悪行の報いで、この岩の中で蛇になって苦しんでいることを告げたといいますが、口を開けた蛇に似ています。



ぎゅうかくじ  
⑥牛額寺と石切谷

獅子山牛額寺は善通寺の末寺で、もとは山麓の牛穴の近くにありました。今は、天霧石の石切谷を背にして建っています。



水場の洞窟（弥谷寺）



岩穴



牛穴（天霧山）

## 天霧山再発見

# 霊山を背にした石切谷

### 異世界に通じる石切谷の洞穴

仏教伝来後、寺院が建立され始めると、軟らかくて加工しやすい凝灰岩が仏塔に使われました。天霧山の南麓は凝灰岩の産地で、奈良時代から天霧石という凝灰岩の採石が行なわれ、石切谷と呼ばれました。中世になると、天霧石は讃岐だけでなく、中国四国の広い地域で使われました。

石切谷の背後に位置する弥谷寺は、空海誕生以前の約1300年前に行基が創建したとされ、伽藍は弥谷山山腹の凝灰岩の露頭地に造営されました。弥谷山は日本三大霊山の一つで、山に宿る神仏が信仰されます。弥谷寺の水場の洞窟は阿弥陀仏の仏国土、

極楽浄土への入口と信じられ、地域の人々は死者の髪を<sup>びくに</sup>比丘尼谷の岩穴に納め、山頂から流れる水で位牌を洗い、死者の極楽往生を願いました。現在は、真言を書いた経木を水で洗い清める「お水まつり」が行なわれます。



凝灰岩層（黄色）に位置する弥谷寺と牛穴



↓井戸

小野篁冥土通いの井戸  
(京都、六道珍皇寺)

小野小町像  
随心院

おののたかむら

## 小野篁冥土通いの井戸

一方、善通寺市碑殿の牛穴は、<sup>ひどの うしあな</sup>霊牛が入りすと伝えられます。実は、牛（水牛）は阿弥陀仏の化身、大威徳明王の乗物として知られており、従って、霊牛が入り出すという牛穴も阿弥陀仏の浄土への出入口と受取ることができます。凝灰岩の谷にできた二つの洞穴は、異世界への扉と考えられたのでしょう。

自然の洞穴や岩は、しばしば動物に見立てられます。弥谷寺の創建時からあった獅子之岩屋は、獅子の<sup>ほうこう</sup>咆哮に似ているとされ、往時は経蔵所として使われました。空海はその經典で勉強に励みました。一方、碑殿の蛇石は、大きく口を開いた蛇に似ています。また、凝灰岩の絶壁には、人の手で磨崖仏や五輪塔などが彫られました。このように、石切谷の様々な伝承や歴史は、凝灰岩という軟らかな石から生まれました。

昭和の初めまで善通寺の本寺だった京都の<sup>ずいしんいん</sup>随心院は、山科の小野にあった牛皮山曼荼羅寺の別院でした。この地は、<sup>おののこまち</sup>小野小町など小野氏の根拠地で、同族に空海と同時期に嵯峨天皇に仕えた小野篁がいます。武芸に秀で、文人としても知られますが、自由奔放な性格のため「野狂」といわれ、数多くの奇行が伝えられます。

<sup>たかむら</sup>篁は、昼間は朝廷に出仕し、夜ごと井戸を通って地獄に降り、閻魔大王の補佐官を努めていたといえます。今昔物語では、病死して閻魔庁に引据えられた藤原良相が<sup>ふじわらのよしみ</sup>篁の取りなしで蘇生したことが記されています。また、愛欲を描いた罪で地獄に墮ちた紫式部を閻魔大王にとりなしたという伝説もあります。小野篁が使った冥土通いの井戸は<sup>ろくどうちんのうじ</sup>六道珍皇寺にあります。異世界に通じる穴は、古より語られてきました。



カッパドキア



仏塔（捨身ヶ岳 禪定）



十三重塔（白峯寺）

## 凝灰岩地下のキリスト教世界

カッパドキアは、トルコ南東部のアナトリア高原にある凝灰岩が広がる台地のことを言います。なかでも、長年の浸食によって「妖精の煙突」と呼ばれるキノコ状の奇岩が林立するギョレメ渓谷では、4世紀頃からキリスト教徒が居住し、巨岩をくりぬいて岩窟教会や修道院を造りました。当初、修道士は先住民のヒッタイト人が造った岩窟で布教活動を始めましたが、後にアラブ人の侵入に備えて、様々な居住空間が設け、岩窟は地下都市へと発展しました。地下数階にまで広がるキリスト教世界は、この地の軟らかな凝灰岩の岩山の存在によって実

現しました。

かつて300を超えた岩窟教会は、現在は30余りが残るのみとなり、また様々な装飾や色鮮やかな壁画で飾られた教会はキリスト教文化の一端を示していることから、1965年世界遺産に登録されました。この世界遺産は、地下都市のみでなく、カッパドキアの奇岩による妖艶な風景美も含めた複合遺産になります。

善通寺市の山並みに分布する凝灰岩層には巨大な地下都市はありませんが、仏像や経典を安置する岩屋や磨崖仏が彫られ、また仏塔の材料として採石されました。

## 地下に広がる世界遺産

鉱山や岩塩の坑道などの地下に広がる構造物は、しばしば世界遺産に登録されてきました。溶岩の断崖をくりぬいた仏教寺院が世界遺産にされた例もあります。トルコでは、凝灰岩台地に地下数階に渡るキリスト教世界が広がっています。



岩倉大師洞穴（捨身ヶ岳 禪定）

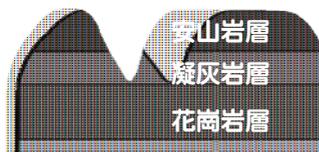
昭和まで続いた天霧石の採石所跡



女木島の大洞窟

## 凝灰岩と天霧石

香川県の地層の基本は、下からマグマが冷えて固まった花崗岩、火山灰や火山弾が堆積した凝灰岩、溶岩由来の安山岩からなります。硬い安山岩に対し、凝灰岩は軟らかく加工しやすいため、絶壁には磨崖仏や岩窟が彫られました。鬼ヶ島で知られる女木島の大洞窟は、人工の岩窟としては巨大なもので、凝灰岩層に造られています。



香川の山の地層

寺院の仏塔や石仏に加工された凝灰岩は、県内で数種類以上が知られていますが、天霧石（凝灰岩）は捨身ヶ岳禪定の仏塔など平安の昔から利用されてきました。また、その採石所が主要街道に近かったためか、中世には白峯寺の十三重塔を始め、中国四国の広範な地域の仏塔に使われました。切出された白い天霧石は、綺麗で加工しやすい反面、風化に弱いため、近世には風化に強い豊島石（凝灰岩）に取って代わられます。さらに、第二次世界大戦後に石材加工技術が発達すると、庵治石などの硬くて美しい花崗岩が主流になりました。

## 大塚池水辺公園

### 古墳にも使われた凝灰岩

天霧山の南にある我拝師山の麓に大塚池があります。池の中には、7世紀初頭に造られた、巨大な横穴式石室が残る大塚池古墳があります。この近隣を治めていた豪族の墓といわれますが、かつての盛り土は池の築堤に使われたようです。露出した石室を構築する巨石は、凝灰岩製のものが使用されています。また、我拝師山南面の谷にある王墓山古墳では、安山岩を積んだ石室を塞ぐ扉に、きれいに整形された凝灰岩の一



天霧山を望む大塚池



古墳跡（中央）



露出した石室

枚岩が使われていました。大塚池には、もてなしの椀が足りなくなった時に、この塚に詣でて椀を借りたという、椀貸し伝説があり、ここを吉原わんがしづか椀貸塚古墳ともいいます。

## 季節がめぐる街の公園

### 庭園、ひとくちメモ（14）

日本庭園では、切出した石を加工した石燈籠など以外にも自然石を多用します。池や島の周囲を自然石で囲んだり、池や島の中に変化をつけるために置いたりするのだけでなく、自然石を主体にした庭園が造られるようになりました。

西条市にある臨済宗の保国寺ほうこくじは、瀬戸内では珍しい室町時代の禅寺の庭があります。中央には蓬莱山と枯瀧があり、それに向かっていく亀（島）が配されています。池には水があり、枯山水の様式はとって



保国寺石庭

いませんが、自然石のみで深山幽谷が造景されています。禅寺の庭は座禅の際に一点を見つめる座観の対象になるため、自然石によって芸術性の高い緻密な景が造られます。

## 比べてウォッチ！



足利尊氏利生塔（善通寺）



役行者像と五輪塔（弥谷寺）



宝篋印塔と護摩堂(弥谷寺)

### 石製の仏塔

釈迦の遺骨の安置を目的とする建造物を仏塔といいますが、建築物以外に石造のものもあります。主なものに、層塔、五輪塔、宝篋印塔があります。五重塔の五つの屋根や五輪塔の五つの石は、下から地水火風空の五大を示し、仏教の宇宙観を表しているといえます。また、宝篋印塔の先端には相輪がつけられ、層塔や多宝塔と同様に、インドのストウーパの原型を残したものとされます。

## 風景をたのしむまめ知識



オオバコ



セイヨウタンポポ



エノコログサ



コスミレ

土でできた登山道や農道と舗装道路や岩の割目に生える植物は少し違います。

### 岩の割目の草花と道端の草花

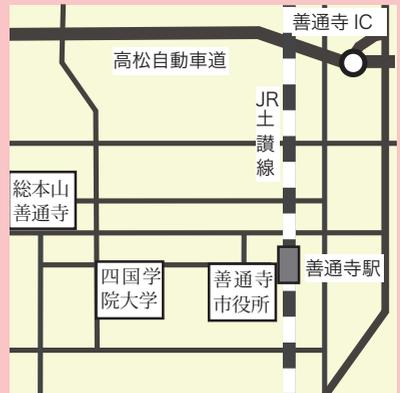
山中でオオバコを見かけると、人家が近いことが分かります。農道にはシバやタンポポが広がります。いずれも葉を地表面にのばし、踏まれても負けないので生き残ります。しかし、人通りが激しくなると、広げた葉が損傷を受けるため、生き残れません。そんな時、葉や体を小さくして生き残る植物がいます。岩の隙間や舗装道路の割目に水が溜るだけで、そこで芽を出して生活できるのです。岩にも負けない植物のたくましさを感じます。

持ち物リスト		
服装	登山グッズ	その他
<input type="checkbox"/> 帽子	<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 長袖シャツ	<input type="checkbox"/> 飲料水	
<input type="checkbox"/> バックパック	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
	<input type="checkbox"/> タオル	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

### 散策の心得

- ・履きなれたシューズで出かけよう。
- ・自分のペースでゆっくり歩こう。
- ・飲み物も忘れずに！
- ・車には十分注意しよう。
- ・ゴミは必ず持ち帰ろう。
- ・ペットの糞対策も忘れずに！

アクセス



バック・ナンバーは左のエコ「散策善通寺」より閲覧できます。  
<http://shigakuweb.jindo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学・四学ウェブ  
 (shigakuweb@yahoo.co.jp)

制作協力

善通寺市役所土木都市計画課  
 (Tel. 63-6314)

参考文献

みちくさ遍路 2001

